

健康長寿に係る先進的な取組事例

行田市

～禁煙サポーター薬局設置事業/禁煙チャレンジ応援プラン助成金制度～

(1) 取組の概要

行田市は、国宝「金錯銘鉄剣」が出土した稲荷山古墳をはじめ、日本最大の円墳である丸墓山古墳など9基の大型古墳が群集する「埼玉古墳群」を有し、埼玉県発祥の地として知られています。また、市内には、忍城址、足袋蔵など、風情のある街並みと、悠久の眠りから目覚め開花した古代蓮をはじめ、豊かな自然と歴史が息づくまちです。



この事業は、薬局で呼気の簡易測定を行い、その結果に基づいて、薬剤師による禁煙の勧奨や生活習慣の改善助言を実施することで、若い世代からタバコの害に関心を持ってもらうとともに、自らの健康を見直す機会を提供するものです。また、禁煙外来の受診費用を助成することにより、禁煙外来の受診を促進し、実際に禁煙に結び付けられるよう支援をしています。

若い時期から健康づくりを意識することで、がんや高血圧などの生活習慣病の予防、COPDの予防などに結びつけ、将来的な健康長寿の延伸につながる事業であるとともに、医療費の抑制につながります。

平成28年度には、厚生労働省が主催する「第5回健康長寿をのぼそう！アワード」において、喫煙率低下を目的とする健康増進や生活習慣病への貢献に資する優れた取り組みとして「厚生労働省局長団体部門優良賞」を受賞しました。

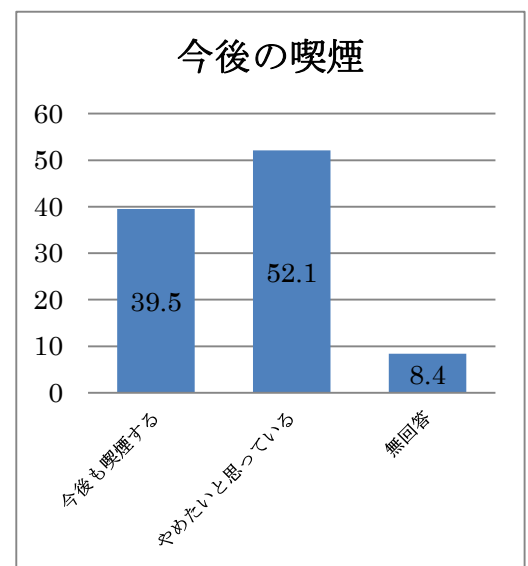
(2) 取組の契機

(ア) 今後の喫煙についての考え

「喫煙に関するアンケート」より、喫煙をやめたいと思っている人は、52.1%と半数以上いました。

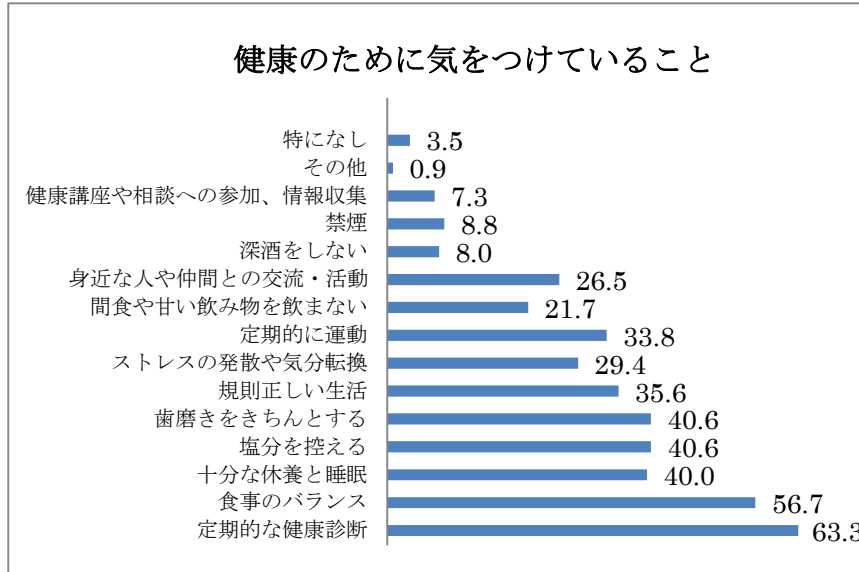
(イ) 禁煙の機会

喫煙をやめたいと思っている人は、上記(ア)のとおり、半数以上でしたが、禁煙をする機会が本人の意思のみに限られていました。



(ウ) 健康のために禁煙に気をつけている人の割合

「健康に関する市民意識調査」の結果から、健康のために気をつけていることとして「禁煙」と回答した人が、8.8%と、その他の項目に比べて少ない状況でした。



(エ) 取組の内容

事業名	禁煙サポーター薬局設置事業	禁煙チャレンジ応援プラン助成金事業
事業開始	平成28年度	平成24年度
平成28年度 予算	256,000円 ・スモーカーライザー ・マウスピース	500,000円 ・助成金 50人×10,000円 (上限)
実施体制	市内14薬局	保健センター

①行田市医師会・行田市薬剤師会との連携及び講習会

行田市医師会の協力により、日本禁煙学会の学会指定講習を開催し、市内薬局の薬剤師等を対象として、禁煙サポーターの養成を行いました。

②禁煙サポーター薬局及び禁煙チャレンジ応援プランのPR

- ・市報、ホームページへの掲載



・市のヤング健診や健康講座参加者へのチラシ配布

・市内薬局・医療機関でのポスター掲示



各種機会を捉え、チラシやポスターを活用して周知しました。

③スモーカーライザーを禁煙サポーター薬局に設置

市内14か所の禁煙サポーター薬局に、スモーカーライザーを設置するとともに、資料を配布しました。

④禁煙サポーター薬局において呼気中一酸化炭素濃度の測定と健康指導

スモーカーライザーで肺の状態（一酸化炭素濃度）を測定し、必要に応じて、健康指導及び禁煙外来への受診勧奨を実施しています。

⑤禁煙チャレンジ応援プラン助成金を案内

禁煙サポーター薬局において、禁煙チャレンジ応援プラン助成金を案内しています。

⑥禁煙に成功した人に助成金

保健センターにおいて、禁煙成功者に対して、禁煙チャレンジ応援プラン助成金を交付します。

⑦禁煙を中断しそうな方への勧奨

禁煙を継続できるよう、禁煙中の状況を電話や文書で聴取します。

⑧禁煙講演会等の案内

保健センターで開催する「肺の健康づくり講座」等を案内し、禁煙の継続への意識を高めます。

⑨マスメディアでの周知

市民へ広く周知するため、新聞等を活用して周知しています。



⑩助成対象者の分析

助成対象者の分析を行い、効果的な事業実施に努めています。

⑪官民連携による健康づくり事業の展開

平成26年5月に「健康増進事業の包括連携協定」を締結した「ファイザー株式会社」と連携し、専門的見地から講演等していただくほか、啓発資材等の提供を受け、住民に配布しています。

⑫保健センターで行っている事業での周知

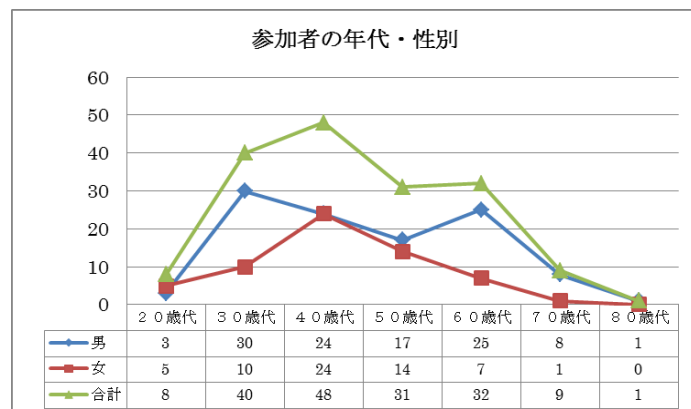
若い世代の人が集まる、ママパパ教室や健診等の機会に、禁煙についての周知を行っています。

(オ) 取組の効果 (平成24年度～平成28年度) ※平成28年度は年度途中までの実績を含む

①禁煙チャレンジ応援プラン助成金事業参加者の年齢及び性別

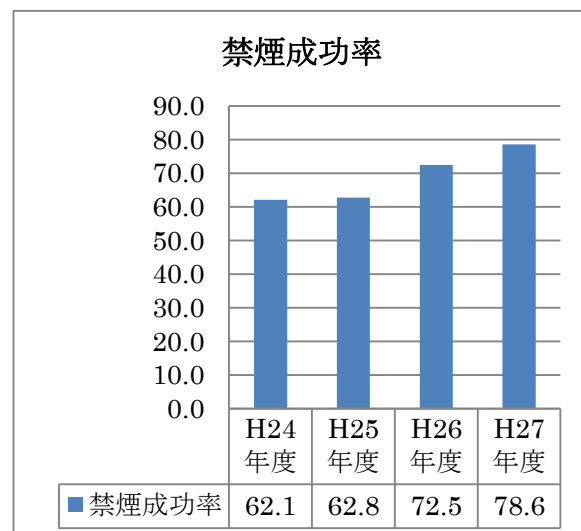
全参加者では、40歳代が48人と一番多く、男性では30歳代及び60歳代が、女性では40歳代が最も多い状況です。

男性は、ライフスタイルの転換期(結婚や定年)に関心が高まる傾向があると考えられます。



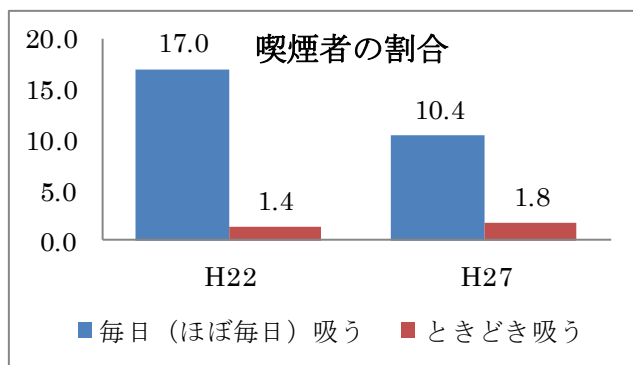
②禁煙の成功率

禁煙の成功率を見ると、事業開始年度の平成24年度から上昇傾向にあり、平成27年度の結果では、78.6%の人が禁煙に成功しています。



③禁煙の習慣の変化

「喫煙に関するアンケート」より、喫煙の習慣で毎日（ほぼ毎日吸う）吸うと回答した人の割合が、平成22年度には、17.0%でしたが、平成27年度には、10.4%と減少しました。



(カ) 成功の要因、創意工夫した点

①医師会・薬剤師会の知見を活用したこと

禁煙サポーター薬局から、禁煙外来、そして、禁煙チャレンジ応援プラン助成金事業へと進むなかで、機会をとらえ、医師や薬剤師から助言・指導をすることができました。

②助成額の割合を高く設定したこと

禁煙外来の自己負担金の平均値が18,780円であるなかで、費用の半分以上の10,000円の助成を行ったことが、禁煙外来を受診する動機づけとなりました。

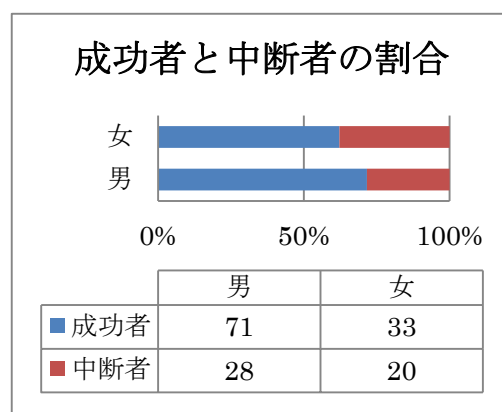
③周知を工夫したこと

マスメディア、市報、ホームページ、チラシ以外にも、薬局や医療機関等の関係機関を通じて周知しました。

(キ) 課題、今後の取組

①禁煙中断者がいる

禁煙の成功率は上がっているものの、中断する人もいるため、禁煙への意欲を継続し、達成できるよう声かけ等積極的に支援していきます。



②効果が見えにくい

年代別・性別・考え方などを分析し、住民のニーズに合った施策につながるよう、分析・評価を継続し、効果を確認していきます。